

「今度の急行にしたまへ、何うせ東京へ行くのは前のより早いから」とか言つた。

本署から角袖が二人来て、俺を護衛して汽車に乗る事になつた。

俺の前と横に腰を据えるのだ。

之は何と云ふ事だ。

「俺を精神病者扱ひにするから、俺は精神病者らしく振舞ふんだ。

俺は精神病者になつても生きて居りたい。

若し俺の生きてゐる事が、キサマ達の生命の安危にかゝはるとか、俺の思想の傳染性が、多くの狂人を産出する憂があるとか、言ふのなら。

一應帝國議會にでも上案してはつきりさせろ。

もつともキサマも斯うして食ふ爲に働いてゐるんだから、國法に腕押しするとか、小便をひりかけて又それを乾かすとか、馬鹿な真似はするな。

俺もしないよ。

でも眠れねいちやないか。